

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200502		
法人名	特定非営利活動法人 鷹の巣		
事業所名	グループホーム 葵		
所在地	北海道上川郡剣淵町仲町23番2号		
自己評価作成日	平成23年11月26日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173200502&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の尊厳、誇り、権利、主張を守り、今ある価値を認め力づける介護 ・自立支援と自己決定を尊重した介護 ・目配り、気配りの介護 ・明るく、楽しく、笑顔の介護 ・職員同士、支え合い、チームプレーの介護を職員の理念として取り組むこと

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<本人の思いや意向を把握した支援> 利用者・家族と話し合いながら、一人ひとりのその日の思いを叶えられるように本人本位に支援している。食事が楽しみなものになるように嗜好を把握し、一人ひとりの力を活かしながら配膳や食後の後片付け等役割を分担したり、受診の回数を減らすように努め、体調の変化を見逃さないように看護師と相談しながら早めの受診や職員間の連携を深めている。 <火災や地震、水害等の緊急時に於ける救援支援> 剣淵町や地域と災害時の協力体制整備のための「協定書」を締結し、緊急時に地域の協力を得ながら速やかに避難できるような体制を構築している。また、スプリンクラーや火災自動通報装置等の設備の充実や近隣住民や地域の人達が参加して行う火災避難訓練等を行い、昼夜を問わず利用者が避難できる方法に努めている。
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	○ 1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)		
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う		
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・カンファレンス時、理念を唱和している ・安心、安全、安楽と尊厳を忘れることなく、日々のケアを実践している	尊厳を大切にしたい理念を作りあげ、カンファレンスでの唱和や日々の業務を通じて、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域行事や活動に参加し、知り合いの人と話が出来る機会を増やしている ・高校生の福祉実習の受け入れも行っている	剣淵高校生の相互訪問や福祉授業を通じた交流、実践者研修や実習生の受け入れ等ホームの持つ機能を地域へ還元している。また、行政との緊密な連携・協力体制を確立し、ケアサービスの向上に活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域ケア会議、運営推進委員会での認知症の人の行動、言動など実践を通しての体験を話している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月毎に会議を行い、状況報告を行っている ・挙げられた意見については、検討報告を行っている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、地域との協力体制について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域包括支援センターとは常に連携を図り、現状報告をし、協力頂いている	剣淵町や周辺市町村と日常業務を通じた情報交換や研修会開催等で地域のケアサービスの向上について協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中の施錠は行わず、入居者の所在確認を行っている ・本人の状況に合わせ、家族と相談の上、離床マット、ベッ柵を安全のために使用している	一人ひとりの尊厳を職員間で大切に、高齢者虐待防止法及び身体拘束廃止委員会で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為等を正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・事業所内のカンファレンスの中でも常に周知し、介護員の間でも注意し合っている ・入浴時の身体状況を観察している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・理事から講習及び指導が有り、必要があれば直ぐに支援できる体制になっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・十分な説明を行って上で契約を行っている ・疑問、質問にはその都度対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議時の内容や家族の意見、要望は全て行政に報告すると共に、必要な場合は地域ケア会議の中でも報告している	家族と話し合いながら、一人ひとりのその日の思いを叶えられるように本人本位に支援している。また、家族の意見や要望等聞く機会を設けて運営に反映していると共に市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に一回カンファレンスの際に職員からの意見を確認、検討している	一人ひとりのケアに関する情報や引継ぎを時間をかけて行っていると共にカンファレンスでも職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員個々の努力や勤務状況に応じた給与支給の対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員教育の年度計画を作成し、本人の希望の教育参加を支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同法人内での職員交流、意見交換を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ 本人の表情、言葉を注意して観察し、安心できる様な言葉かけ、態度で接する様努めている ・ 入所前に本人に直接面会し、入所時の対応を検討している		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ 家族からの希望に合わせ、本人に必要な支援を検討し、実施する様努めている		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ 入所して直ぐは環境の変化に適応出来ない事が多いため、安心して過ごせる様な対応を心がけている		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ 本人の能力を見極め、出来る事を一緒に行う様にしている		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ 家族と連絡を取り合いながら必要な支援と一緒に検討し、実施する様努めている		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ 馴染みの人の面会の際には、自室でゆっくり過ごせよう配慮している ・ 外出については、職員、家族の同伴で行っている	友人や知人等の馴染みの人の訪問支援や買い物や散歩等のお出かけで馴染みの場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ 利用者同士の関係の把握、見守りを行っている ・ 関係が上手く行かない際には、早期に対応、検討する様に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係性を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も本人、家族からの相談があれば可能な限り対応、支援をしている		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人又は、家族からの希望などを聞き、検討し、対応している	本人・家族と話し合いながら、思考の把握や外出等本人本位の支援に努め、行動障害についても、本人に寄り添い納得が得られるように支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族や本人にこれまで関わってきた医療機関、サービス等の職員などから状況を聞き取りする様にしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・今までの暮らしの状況や日々の生活の中で少しずつ状況把握している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月に一回カンファレンスを開き、介護計画を見直し、ケア内容の変更の際には家族に相談した上で実施している ・月に一回モニタリングの記録を行っている	日々の引継ぎやカンファレンスで課題を明確にし、本人・家族と話し合いながら現状に即した介護計画を作成し、介護記録にその内容を記載している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日介護記録を個別に記入し、職員間で情報を共有している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状況に応じてケア内容を職員間で再検討し、支援している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・町の行事などには見学や参加する様にしている ・本人の希望に応じて、今まで通っていた美容室等への送迎を行っている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前からのかかりつけ医への受診が出来る様支援している ・緊急の受診が必要な際には、家族への報告後、受診を行っている	受診の回数を減らす為に体調の変化を見逃さないよう看護師と相談しながら早めの受診を支援している。また、受診は本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常に情報、気づきを報告している ・緊急時は電話連絡し、指示を貰っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、本人の状況等を添書にまとめて、情報提供している、又、入院中の状況を家族に確認している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人の状況変化は常に家族へ報告している ・今後予想される事についても話した上で、重度化した場合の対応を家族と検討している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら職員間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年に二回、救急法の訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に三回、避難訓練を行っている ・災害時に備え、剣淵高校の協力が得られる様、契約している	剣淵町や地域と災害時の協力体制整備のための「協定書」を締結し、緊急時に地域の協力を得ながら速やかに避難できるような体制を構築している。また、スプリンクラーや火災自動通報装置等の設備の充実を図っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・本人を傷付けない様な言葉かけ、態度で接する様に努めている	一人ひとりの尊厳を職員間で共有し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・まず本人がどうしたいか確認している ・自己決定が困難な方には2～3の選択肢から決定出来る様声かけしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・水分補給、食事等は大体決まった時間に一緒に行うが、その時の本人の状態によって時間をずらしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の好きな服を着ている ・自己決定が困難な方には今まで好んで着ていた物を選ぶようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人が食べやすい様に刻む等し、職員も一緒に食事している ・片付けも一緒に行っている ・個人の嗜好調査を行い、メニューに加えている	食事が楽しみなものになるように嗜好調査を行いメニューに反映していると共に一人ひとりの力を活かしながら配膳や食後の後片付け等役割を分担している。	
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の食事量を把握し、配膳している ・水分量が少ない方には、声かけや、他の時間に小まめに水分補給出来る様に支援している		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを行っている ・必要に応じて、義歯のブラッシング洗浄介助を行っている		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・本人の排泄パターンに応じ、トイレ誘導、介助を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便状況を把握している ・必要な方には牛乳を飲んでもらう様にしている		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週に2～3回程度本人に確認した上で、入浴介助を行っている ・浴槽の出入りが困難な方については、リフトを使用し、負担を軽減させている	週2～3回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴を楽しめるように支援している。また、リフトを設置し、入浴がし易いように支援している。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間の睡眠が十分に取れる様、支援している ・日中ホールで休まれている方については、状況に応じ、毛布を掛けたり、自室で休んでもらう様にしている		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が一人一人の薬について確認が出来る様にしている ・利用者別に毎月職員が交代で薬剤をセットしている		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・本人の出来る事を一緒に行ったり、散歩、ドライブ等で気分転換を図っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・戸外に出掛けて、デパートやホテルで外食したり、状況によってはドライブに出掛けたり、地域の行事に参加している	近隣への散歩や気分転換の為職員が寄り添い戸外に出かけられるように支援している。また、ホテルでの外食やデパートでの買い物、地域のお祭り等のイベント参加や紅葉見物等普段行けないような場所でも出かけられるように支援している。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人の理解度と家族の話し合いの下、お金を所持している ・外出先などで買い物ができる様に支援している		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望が有れば応じている ・かかって着た電話は本人に取り次ぎ話ができる様に支援している		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節毎の行事等に合わせ、飾り付けを利用者と一緒にしている ・その時々を利用者の状況、又は季節に合わせ、テーブルに花を置いている ・異食などの危険が有る際には、危険な物を置かない様に配慮している	共用の空間では、皆が集まって歌ったり、一人になったり談笑ができるようにソファや椅子が配置されている。また、季節毎の花が飾られたり、行事等の写真が掲示されるなど本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホール以外にもソファ、椅子などを設置し、好きな場所で過ごせる様に支援している		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた自分の家具や寝具を持参してもらう様にしている ・本人の状況に合わせ、ベット、畳を使用している	居室は、一人ひとりの力や身体状況に合わせて畳やベットを使用している。また、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具、仏壇等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自室には無いので、自力でトイレへ行ける様に支援し、無理な人には自室にポータブルトイレを設置している ・出来る限り一人一人が自立した生活を送れる様に支援している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 栞

作成日: 平成 23 年 12 月 9 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	30	・土日、祝日に町立診療所が休診となり、緊急時主治医への受診が出来ない	・医療機関の問題を改善することは困難であるため、緊急受診をしなくても良い様に日々のケアに取り組む	・入居者一人一人に対する体調の観察 ・体調変化を見逃さず、早めに受診や相談をする ・職員間の連携の強化	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。